

授業科目名	保育者論		担当教員名	川人 公一
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	教育の基礎理解に関する科目-教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) / 保育の内容・方法に関する科目	
必修-選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)		授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	1年 後期 (3-4期) / ※令和8年度は開講しません		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 幼稚園園長としてのとしての実務経験に加え、小学校校長としての学校運営に関わる実務経験を活かして授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	現代社会における保育の重要性を背景に保育者の意義、役割、資質能力、職務内容等について身に付け、保育への意欲を高め、さらに適性を判断し進路選択に資する保育者のあり方を理解する。			
到達目標	<p>(1)我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。</p> <p>①公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。</p> <p>②進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2)教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。</p> <p>①教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。</p> <p>②今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3)教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。</p> <p>①幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。</p> <p>②教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</p> <p>③教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4)チーム学校への対応</p> <p>①校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>			
テキスト	使用しない			
参考書・参考資料等	「新保育ライブラリ・保育原理 新版」民秋言・千葉武夫・河野利津子編著(北大路書房) 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社),授業中、適宜紹介する。			
成績評価の方法	理解度・到達度チェック(筆記形式) 50%、課題(レポート) 30%、コメントシート提出10%、平常点10%			
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等				
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	保育者の役割と倫理 ・役割と職務内容 ・保育者としての資質			
第2回	保育者の役割と倫理 倫理観、保育者としての仕事			
第3回	保育者の制度的位置付け 児童福祉法における保育士の定義			
第4回	子どもの成長発達への視点 ・保育の形態と指導方法			
第5回	保育者の制度的位置付け 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等 ○課題(レポート)			(3)-③
第6回	保育士の専門性 保育士の資質能力			(2)-②
第7回	保育士の専門性 養護及び教育の一体的展開 ○理解度・到達度チェック(筆記形式)			
第8回	保育士の専門性 家庭との連携と保護者に対する支援			
第9回	保育士の専門性 計画に基づく保育の実践と観察・評価			
第10回	保育士の専門性 保育の質の向上			
第11回	保育者の連携・協働 ・保育における職員間の連携・協働 ・保育集団の一員として			(4)-①
第12回	地域の中の保育者・施設 専門職間、専門機関、地域自治体や関係機関との連携・協働			(4)-①
第13回	保育者の資質向上とキャリア形成 資質向上に関する組織的取り組み ○課題(レポート)			(3)-②
第14回	保育者の資質向上とキャリア形成 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義			(3)-②
第15回	自己改革ができる保育者 ・さまざまな学習の機会と出会い 全体まとめ ○理解度・到達度チェック(筆記形式)			(3)-②